杉よ！　眼の男よ！

富岡誠

青空文庫

『杉よ！
　眼の男よ！』と
俺は今、骸骨の前に起つて呼びかける。

彼は默つてる。
彼は俺を見て、ニヤリ、ニタリと苦笑してゐる。
太い白眼の底一ぱいに、黒い熱涙を漂はして時々、海光のキラメキを放つて俺の顔を射る。

『何んだか長生きの出來さうにない
　輪劃の顔だなあ』

『それや——君

――君だつて――
さう見えるぜ』

『それで結構、
三十までは生き度くないんだから』

『そんなら――僕は
――僕は君より、もう長生きしてるぢやないか、ヒツ、ヒツ、ヒツ』

ニヤリ、ニタリ、ニヤリと、
白眼が睨む。

『しまつた！
やられた！』

逃げやうと考へて俯向いたが

『何糞ツ』と、
今一度、見上ぐれば
これは又、食ひつき度い程
あはれをしのばせ
微笑まねど
惹き付けて離さぬ
彼の眼の底の力。

慈愛の眼、情熱の眼、
沈毅の眼、果斷の眼、
全てが闘争の大器に盛られた
信念の眼。

眼だ！　光明だ！
固い信念の結晶だ、
強い放射線の輝きだ。
無論、烈しい熱が伴ひ湧く。

俺は眼光を畏れ、敬ひ尊ぶ。

彼に、
イロが出來たと聞く毎に
『またか！
　アノ眼に參つたな』

女の魂を攫む眼、
より以上に男を迷はした眼の持主、
『杉よ！
　眼の男よ！』

彼の眼光は太陽だ。
暖かくいつくしみて花を咲かす春の光、
燃え焦がし爛らす夏の輝き、
寂寥と悲哀とを抱き
脱がれて汚れを濯ぐ秋の照り、

萬物を同色に化す冬の明り、
彼の眼は
太陽だつた。
遊星は爲に吸ひつけられた。

日本一の眼！
世界に稀れな眼！
彼れの肉體が最後の一線に臨んだ刹那にも、
彼は瞑らなかつた。
彼の死には『瞑目』がない。
太陽だもの
永却に眠らない。

逝く者は、あの通りだ——
そして
人間が人間を裁斷する、
それは

自然に叛逆することだ。
怖ろしい物凄いことだ。
寂しい悲しい想ひだ。
何が生れるか知ら？

凄愴と哀愁とは隣人ではない。
煩悶が、
その純眞な處女性を
いろいろの強權のために蹂躙されて孕み、
それでも月滿ちてか、何も知らずに、
濁つたこの世に飛び出して來た
父無し雙生兒だ。

孤獨の皿に盛られた
黒光りする血精に招かれて、
若人の血は沸ぎる、沸ぎる。
醗酵すれば何物をも破る。

死を賭しての行爲に出會へば、
俺は、何時でも
無條件に、
頭を下げる。

親友、平公高尾はやられ、
畏友、武郎有島は自ら去る。
今又、
知己、先輩の
『杉』を失ふ——噫！

『俺』は生きてる。

——やる？
——やられる？
——自殺する？

自殺する爲めに生れて來たのか。
やられる爲に生きてゐるのか。
病死する前に——
やられる先手に——

瞬間の自由！
刹那の歡喜！
それこそ黒い微笑、
二足の獸の誇り、
生の賜。

『杉よ！
眼の男！
更生の靈よ！』
大地は黒く汝のために香る。
——一九二三・一一・一〇——

青空文庫情報

底本：労働運動　大杉栄・伊藤野枝　追悼号　大正13年3月1日
　　ウニタ書舗　1971（昭和46）年11月26日復刻発行
入力：田島暁雄
校正：Juki
1999年5月23日公開
1999年8月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです

杉よ！　眼の男よ！

富岡誠

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/